

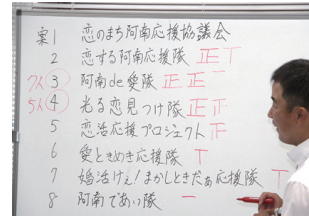
独身男女に出会いの場を！ 「阿南de愛隊」を結成

昨今の少子化の要因の一つである未婚化・晩婚化への取組として、独身男女に出会いの場を提供して結婚活動を強力に支援していくこと、婚活支援に取り組む官民8団体が、7月11日、「阿南de愛隊」を結成し、第1回目の会議を開きました。

会議には、8団体11人が出席し、名称を「阿南de愛隊」に決めたほか、10月14日(日)に開催する予定の婚活イベントなどについて話し合いました。岩浅市長は、「結婚願望を持つ未婚者は、男女とも8割以上にのぼりながら出会いの場が無いことが、国立社会保障・人口問題研究所の調査で示されており、出会いの場を継続的に提供していく必要があります。」とあいさつ。「阿南de愛隊」では、会員向けの研修会や未婚者向けの勉強会などを行い、婚活イベントも定期的に開催していくとしています。



▲会議の様子。



名称は8案から多数決で決定。

園児と地域住民との間に 咲く友情という名の花



花を大切にする心を養い地域住民との交流を深めようと、「岩脇公園を美しく志隊」の皆さんと羽ノ浦こぼと保育所の園児15人が、6月4日、香風台公園(羽ノ浦町岩脇)で花づくりを楽しみました。参加した園児は、マリーゴールドや日々草など260株を約12平方メートルの花壇2カ所に、地域のおじさんたちと一緒に1株ずつ丁寧に植え付けました。花が大好きという篠本龍子ちゃん(5歳)は、「楽しかった。元気に育ってほしいです。」と楽しそうに植えていました。「岩脇公園を美しく志隊」の新田文一さんは、「地域との触れ合いや花を大切にする心を養ってほしいです。」と話していました。日々草の花言葉は「若い友情」。花づくりを通して地域の絆が育まれています。

消防団加茂谷6班 全国大会へ！ 県消防操法大会で悲願の初優勝 加茂谷7班は2回連続優勝

「第28回徳島県消防操法競技大会」が、7月22日、徳島県消防学校で開催され、県内の消防団員約200人が参加して操法競技を繰り広げました。競技は、ポンプ自動車の部と小型ポンプの部で行われ、ポンプ自動車の部では加茂谷7班が、小型ポンプの部では加茂谷6班がそれぞれ優勝し、小型ポンプの部で優勝した加茂谷6班は、10月7日に東京都臨海広域防災公園で開催される第23回全国消防操法大会に出場することとなりました。

初の栄冠を手にし、喜びを爆発させた加茂谷6班の曾我井和朗さん(31歳・吉井町)は、「市の大会で2位に甘んじたことでみんなの心に火が付きました。みんなの力が一つになったことが勝因。全国大会に出るからには優勝をめざしたいです。」と、目を熱くしていました。



小型ポンプの部で初優勝した加茂谷6班の皆さん。

【阿南市の成績】

ポンプ自動車の部	優勝	加茂谷7班
小型ポンプの部	優勝	加茂谷6班
	4位	加茂谷1班
地方分会の部	優勝	阿南市

消防団震災時活動計画を策定 14分団で幹部研修会を実施

自分や家族の命を最優先とし、その後の基本的な活動を示した「阿南市消防団震災時活動計画」が6月に策定され、市消防本部による市内14分団を対象にした幹部研修会が実施されています。

7月6日、長生分団で行われた研修会には、1班から5班までの班長など9人が参加して、震度5弱以上の震災時における消防団の活動内容について説明を受けました。

昨年、独自に活動マニュアルを作成していた分団長の中村恒彦さんは、「消防団員としての活動方針が示されてよかった。」と話していました。



長生分団第1班消防詰所で実施された幹部研修会の様子。

JAXAとの初めての連携事業 ～宇宙の神秘を体験しよう～



「JAXAわくわく学習会」が、7月8日、阿南科学センターで開催されました。JAXA職員で有人宇宙環境利用ミッション本部きぼう利用プロモーション室アドバイザーの齋藤紀男さんが、宇宙実験棟きぼうや宇宙ステーションを映しながら、「宇宙までの距離は案外近い。将来宇宙旅行も夢ではない。」と話し、参加した小学4年生から6年生児童39人は熱心に耳を傾けていました。また、宇宙環境を学ぶ真空実験では、カップに風船を入れふたをして、空気を抜いていくと風船が膨らむ様子を体験しました。参加した前川朔輝さん(富岡小4年)は「実験で宇宙の様子を知ることができた。未来が楽しみになった。」と話していました。事業は、市教委とJAXAが結んだ「宇宙教育活動に関する協定」に基づく初めての連携事業として開催されました。

マムシ被害や水の事故を防ぎたい！ 園児と住民が看板で注意喚起



マムシ被害や水難事故が多くなりがちな時節を前に、長生町駐在所管内地域の阿南の安全を守る会と長生保育所の園児22人が、事故防止を呼びかける立て看板8枚を、長生橋付近の桑野川の堤防の外側に設置しました。設置した看板は、長生保育所のすみれ組(5歳児)の皆さんが絵付けした縦横45センチ、高さ120センチの木製看板で、マムシが牙をむいた絵に「マムシちゅうい」と書かれたものや、川で溺れている子どもの絵に「あぶない」と書かれた2種類。参加した芝山拓人ちゃん(5歳・長生町)は、「この看板を見て事故に注意してほしい。」と話していました。地域の安全を守る会会長の浅野青史さん(63歳・長生町)は、「子どもたち自身の注意喚起にもつながります。」と、木槌を持つ手に力を込めていました。